Anchor's PERSON

雅シビルアーキ　株式会社
代表取締役

泉　雅輝

「人間関係が良くなければ、良い仕事を生み出せるわけがない」と泉社長。
土木工事も建築工事も、「人」で成り立っていることを理解しているからだ。
現場監督としてキャリアを蓄積する中で、また独立・起業して以降も、
協力や助力があればこそ、品質を守り、また不測の事態も困難も乗り越えられた。
「地域・会社・社員とその家族たちの共存共栄を大事にする会社でありたい」――
この確たる信条が、社長が進むべき道を照らしている。

「すべては人で成り立っている。だから、共存共栄を大事にしたい」

© 2020 HOUDOU-TSUSHINSHA Co.,Ltd.

土木・建築工事、両方に精通――北海道に根を張り、地域活性化に貢献する

代表取締役　泉 雅輝　×　俳優　大沢 樹生

雅シビルアーキ 株式会社

北海道札幌市豊平区美園１条３丁目 1-1
さたてビル 2F
URL：http://www.miyabi-civilarchi.com

建設部門と北海道ブランドの発信などを手掛ける海外事業部門の二本柱を掲げる『雅シビルアーキ』。「シビルエンジニアリング＝土木」と「アーキテクチャー＝建築」の二つを組み合わせた「シビルアーキ」を社名に冠している通り、建設部門では土木工事全般と各種建築工事の両方の請負及び施工管理を担う。2017 年の設立から４期目を迎え、着実に業績を上げている同社。本日は俳優の大沢樹生氏が訪問。この道一筋に歩んできた泉社長にお話を伺った。

with guest interviewer

――早速ですが、泉社長はどういったきっかけで建設業界に進まれたのですか。

父が土建屋に勤めていて、小さいころは夏休みになると仕事場に連れて行ってもらって父の仕事を見ていたんです。格好良いな――周りから「親父」と呼ばれて頼りにされている父のことをそう思う中で、自分も同じ道へ進むことを決め、高校卒業後は工業大学の土木工学科に進学しました。父は私が高校生の時に独立を果たしていたので、いずれは父と一緒に仕事をしたいと思っていたのですが、私が大学２年生の時にガンで他界してしまったんです。まだ学生ですから父の会社を引き継ぐこともできず、卒業後は札幌市にある建設会社に就職しました。

――お父様のことは、残念でしたね。その会社には何年ほどお勤めを？

私が入って２年ほどで解散することになったんです。残された技術者はその会社の子会社と新しく立ち上がった会社の２社に振り分けられ、私もそのうちの一社で再スタートを切りました。ところがその会社が借金を抱えていたことから経営が傾き、ある日突然、私たちは解雇を言い渡されたんです。あの時は、本当に呆然としました。

――それは、災難が続きましたね。

あれは 30 歳になる年の出来事で、偶然、先に辞めていた同期が地元の大手ゼネコンに勤務していて、紹介でそちらに入社させていただくことができたんです。それが 2000 年のことで、そこから 13 年勤めました。そちらでは、現場監督として、全国各地に点在する支店を飛び回っていましたね。宮崎県日南市で行われた大規模工事にも携わったのですが、当時は結婚して子どもが生まれたばかりだったので家族で移り住み、１年半ほど同地で暮らしたものでした。

――そうして、現場監督としてキャリアを積んで、いざ独立を？

はい、工程・施工管理を担う現場監督を務め、ずっと管理畑を歩んできました。自分一人で務まる仕事で、道具や機械も必要なく、身体一つではじめられる仕事ですからね。ただ、独立のことはずっと頭にあったものの勤務先の待遇が良かったのでなかなか飛び出す踏ん切りがつかなくて。でも、一念発起して独立。先輩に独立を報告したら、「会社を辞めただけで、仕事がなければ無職と同じ」と言われたんです。おっしゃる通り、まだ仕事は確保していなかったので、その翌日から営業をはじめました。

――先輩が発破をかけて下さったわけだ。仕事は確保できましたか。

最初の１週間は全然でしたよ。その後、20 年ほども会っていなかった元同僚と再会したのですが、たまたま職人が足りないから手伝ってくれと言われたんです。そこから少しずつ、人のつながりで仕事をいただけるようになりました。

――社長のお話には、節目節目できっかけをくれる方が出てきますね。そうして今に至り、御社ではどういった事業を？

主に、土木工事全般と各種建築工事の請負及び施工管理を手掛けています。前職では、大きな処理場やポンプ場の地下に水槽を作る仕事があったのですが、それは土木、その上に建てる管理棟は建築の範疇なんですね。土木にも建築にも明るければ、それだけ仕事の間口が広がると考え、建築も勉強して一級建築施工管理技士、そして一級建築士の免許を取得しました。

――土木工事に携わる方が一級建築士の免許もお持ちというのは珍しいですね。

はい。ほとんどいらっしゃらないと思います。独立して最初に手掛けたのは土木でしたが、その２カ月後には建築の仕事を受注することができ、それを皮切りに仕事がつながっていきました。今では、土木工事全般と各種建築工事の両方を担えることが当社最大の強み。建築工事の専門家が入社してくれたので、土木と建築で役割を分担できる体制も整いました。

――人材にも恵まれているようですね。仕事をされる上で、大事にされていることは何ですか。

「人」です。この仕事は人で成り立っているので、周囲との良好な関係こそが良い仕事を生み出します。ですから、コミュニケーションを密に図ることを大事にしています。そしてもう一つ。「工程管理」も重要なんです。工程通りに仕事を進められれば利益率をクリアでき、円滑な仕事運びは品質維持と向上にも結びつきます。現場には各工程を専門とする職人さんが入りますが、皆それぞれに予定がありますので、工程がズレてしまった場合、対応してもらえるとは限りません。でも、常日頃からコミュニケーションを取って信頼関係を構築しておけば、無理を聞いてもらえる。人対人の部分を疎かにしないことが、とても大事なんです。

――「人」で成り立っていることがよく分かります。今後については、どのような展望を描いておられますか。

土木工事全般と各種建築工事に加えて、フリーアクセスフロア及び床の設計施工、耐火遮音壁の設計施工、各種コンクリート構造物の建設・調査・補修・耐震補強など幅広い分野をカバーしていますが、今年６月に建設業許可を取得できたので今後はさらに請負いにシフトしていくつもりです。また、将来的な夢は総合建設会社となって、北海道を開拓することです。私は釧路の出身でして、故郷も含め、過疎化している地域や活気を失っている街の活性化に微力ながら貢献したいですね。

（2020 年９月取材）

「現場監督としてキャリアを積んでこられた泉社長ですが、はじめて担当した現場では失敗されたそうです。お仲間に助けられて無事に完遂することができたそうで、人を大事にされる方針はそうした経験によるものなのでしょうね。立ち上げから４年ながら成長一途。今後のさらなるご活躍が本当に楽しみです！」　大沢 樹生・談

column

北海道ブランドを発信する海外事業にも期待

▼『雅シビルアーキ』は、建設事業に加えて海外事業も設立。その背景にあるのは、北海道出身の泉社長の郷土愛だ。“メイド・イン・ジャパン”は品質の高さが世界で認められているが、その中でも高い信頼を得ている“北海道ブランド”を世界各国に届けたいとの思いから輸出業に着手する予定だという。現在は中国の大連と上海の大手商社と商談を進めるなど準備段階だ。中国に留まらず輸出先を拡大して、北海道ブランドを発信していく。また、輸入にも精力的。お客様の要望に応じて自社のバイヤーが各国に足を運び、商品の調達を行っていく。世界から様々なものを輸入して日本国内に広めていきたいという。北海道の魅力を世界に発信していくことは、ひいては日本の国際競争力の底上げにつながるかもしれない。輸入によって海外の製品をより手に入れやすくなれば暮らしに彩りが増す。世界との貿易――同社の新たな事業柱として、その発展に期待がかかる。

© 2020 HOUDOU-TSUSHINSHA Co.,Ltd.